

ECBは政策金利を据え置き、域内景気の回復力に自信を深める

- ECBは3会合連続で、政策金利の据え置きを決定
- 一部景気下振れリスクの後退を指摘
- 先行き不透明感への懸念は残し、
政策金利軌道の手掛かりは与えず

■ ECBは中銀預金金利を2.0%に維持

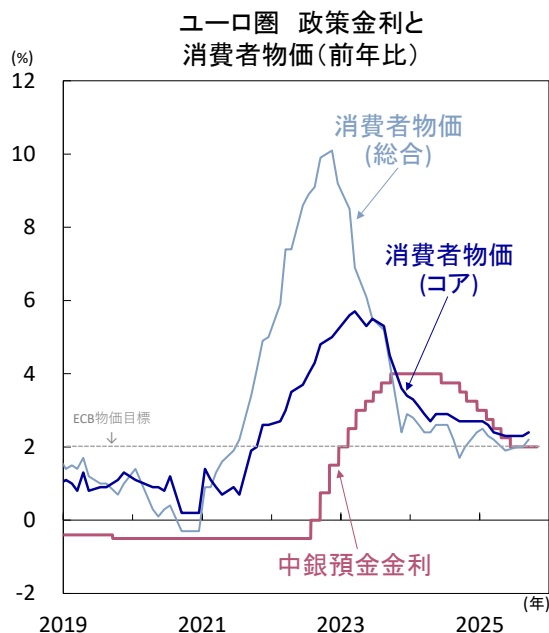
欧州中央銀行(ECB)は30日、事前予想の通り、3会合連続で主要政策金利を据え置き、中銀預金金利を2.0%に維持(図1)。声明文内容は前回会合から大きく変わらず、インフレ率は引き続き中期物価目標である2%に近い水準にあり、インフレ見通しに概ね変更はないとしました。経済状況を巡っては、厳しい外部環境にもかかわらず、成長を続けていると指摘。経済・物価動向は、依然良好な状況にあると捉え、政策変更は不要と判断した模様です。

■ ユーロ圏景気は想定以上に底堅く、
ECBは一部下振れリスクの後退を指摘

同日公表されたユーロ圏の7-9月期実質GDP(速報値)は前期比+0.2%と、市場予想やECBスタッフ経済見通しを上回り、景気の底堅さを確認する結果となりました。ユーロ圏の10月総合購買担当者景気指数(PMI、速報値)も52.2と17カ月ぶりの高水準に上昇し、景気堅調の継続を示唆(図2)。会合後の記者会見で、ラガルド総裁は足元の経済成長に不満はないとの見解を示しました。また、EUと米国の貿易協定や中東での停戦、米中貿易交渉の進展を受け、景気下振れリスクは一部後退したと評し、域内経済の回復力への自信は以前よりやや増した印象です。

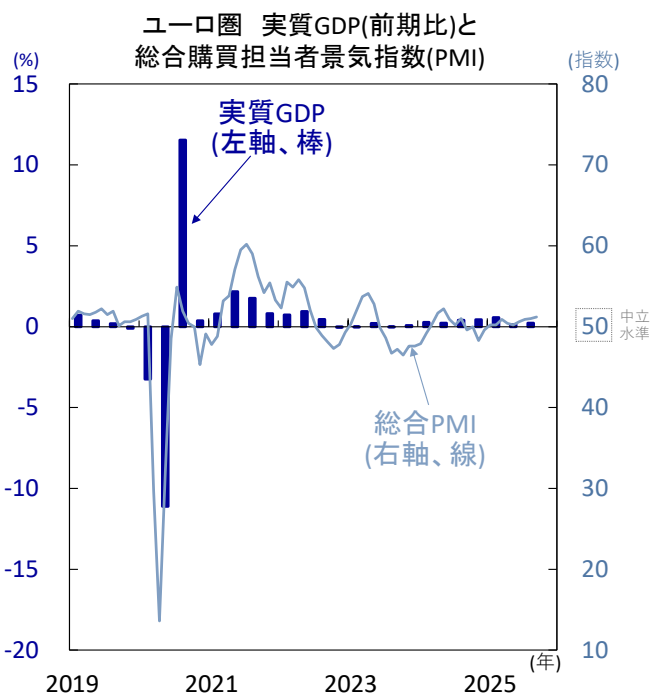
■ 先行きの金融政策軌道には言質を与えず、
追加利下げの有無を探る展開が継続

しかしながら、現在進行中の世界的な貿易戦争や地政学的な緊張により経済・物価見通しは依然不透明としており、ラガルド総裁は足元の良好な状況は「固定」されていないとも言及。ECBは不確実性への懸念を残し、先行きの政策判断を巡る新たな手掛かりは示さず、データ次第で会合毎に決定する方針を維持しています。この結果、短期金融市場の追加利下げ観測は大きく変わらず、足元の経済・物価動向の良好さを受けて次回12月会合での金融政策据え置きを概ね確実視しつつも、4割程度の確率で来年6月までに1回(0.25%pt)の追加利下げを予想。次回12月会合で示される経済見通しや経済・物価動向から追加利下げの有無を見極める展開は続きそうです。(吉永)

【図1】ユーロ圏のインフレ率は物価目標付近に留まり、
ECBは3会合連続で政策金利を据え置き

注) 直近値は消費者物価が2025年9月、政策金利が同年10月30日。
コア: 除くエネルギー・食品・アルコール・タバコ

出所) Eurostat, ECBより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】外部環境の厳しさにもかかわらず、
ユーロ圏景気は底堅い推移を維持

注) 直近値は実質GDPが2025年7-9月期(速報値)、
総合PMIは同年10月(速報値)。

出所) Eurostat, S&Pグローバルより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会